



和漢朗詠集

乾



倭漢朗詠集卷之上



春

早春

早春

春興

春夜

春日
付春菜

春日
付桃花

暮春

三月盡

閏三月

寫 ミクシ

梅 むめ
付紅梅 ついでんばい

鄴躅 ついでん

夏 なつ

更衣 きりぎ

霞 かすみ

柳 やなぎ

款冬 くわんどう

首夏 しゅなつ

雨 あめ

花 はな
付落花 ついでんばい

藤 ふじ

夏衣 なつぎ

端午 たんご

花橘 はなたち

螢 へい

秋 あき

立秋 りゅうきゅう

納涼 のりやう

蓮 れん

蟬 せみ

早秋 さきあき

晚夏 ばんなつ

郭公 かくこう

扇 あふぎ

七夕 たねしち

秋興 あききょう

秋暎 あきげん

秋爽 あきすわ

八月廿九日 はつがつにじゅうくにち

九月九日 くわがつくにち

九月十日 くわがつじゅうにち

女郎花萩 むすめはなはぎ

蘭 らん

橙 あまみかん

紅葉 あきばな

紅葉 あきばな

鷹 たか

虫 むし

鹿 しか

露 つゆ

露 つゆ

擣衣 うしひ

冬 ふゆ

初冬 あたまふゆ

冬装 ふゆぎ

歲暮 としごけ

爐火 ろか

霜 しも

雷 かみなり

冰 こおり

霰 あられ

佛名 ぶつな

春 皇春

春 皇春
逐吹潜用不待芳菲復

逐春香已爰將希雨露之恩

池凍東顧風度解忘梅北

面雪封寒

柳無氣力條先動池有波

上
川

文水也開

今日不知誰計會春風

水一時來

夜向殘更寒聲盡春生香

火曉爐燃

多乃うらふもろはきつる多りいと勢と
あうとやいもんやとやいはせ

神いらくむひしりーあははほもろ
はらうら多くのう勢やとくを
たまふをのやつふりやみう
やまきかすまてきまをいん

早春

冰消田地意雜春入枝

條柳眼促

先遣和風報消息續後

多 沈 来 虫

東 岸 柳 遠 速 不 同

南 枝 小 枝 梅 再 落 已 矣

紫 雲 嫩 嚴 人 春 手 若 玉 寒

道 鍾 晚 毒

氣 蔚 風 振 新 柳 暖 冰 消 波

沈 鷺 若 嶺

庭 增 奇 色 晴 沙 綠 林 變 音

輝 霜 雪 紅

Handwritten notes in cursive script, likely commentary or a related poem, starting with characters like '少', 'う', 'つ', 'も', '見', 'く', 'は', 'な', 'ふ', 'さ', 'り'.

春興

花下忘由周
東大京橋
前勃

碎是春風

野草青花
紅錦地遊
絲縹

靑碧羅天

秋溪如
花屬
英室
常

頌上陽春

山樾漫野
樾日曝
紅錦
幅

門柳暖春
柳風
宛
鞠
聲
流

秀野
展
友
紅
錦
滿
茵
花

疎碧
野
流
清

林中
花
錦
時
再
落
玉
外
花

徳成有是

笠歌本月あはれ思ひつゝ

風をよき情

きよき心の大人を人まじりて
はる冬なれどあはれ思ひつゝ
あはれつゝあはれ人あはれ

春歌

背燭共憐深月踏花回

惜少年去

なつかしきあはれあはれむらさき
なつかしきあはれあはれむらさき

子曰甘若菜

倚松樹以摩腰習風霜
種根也和菜美而後日期

花の心人志也けるの跡
三月三日甘桃花

三月三日甘桃花

春來遍是桃花水不辭仙

源何處尋

春之暮月之三期天醉

千花桃李之感也我后一

日之澤万様之餘曲水帷

遙遺塵法地書也字以知

地勢思魏文以歌風流也

志之所之謹之小序主余

煙霞遠近應回戶桃李溪

深似初魚

水成巴事物三日源起周

年後發表

破石邊來心痛待毒海邊

造手先應

春雨餘濕曾波眼新嬌

曉風緩吹不言唇先笑

三ちとせりたるそふも此ふとて
まはしはるふあひふ斗ふま

暮春

拂水柳花白万枝隔梅雪

古曲三聲

位翅沙鷗潮落曉乱練燈

馬草涼表

人 世 更 少 时 須 惜 年 不 老
春 海 堂 完

劉 伯 知 今 日 好 無 之 計

亦 不 之 何

心 亦 不 之 何 亦 不 之 何

三月 廿 五

留 春 不 短 喜 由 人 疾 毫
賦 風 不 電 風 起 屯 蓄 索
竹 溪 未 消 水 美 妙 之 我
破 道 殊 甚
惆 悵 去 由 而 少 故 世 亦 友 花
下 漸 美 矣

送春不用動舟車送春不用動舟車 惟別錢惟別錢

常常 落毛落毛

為為 友友 飯飯 光光 知知 飯飯 忘忘 亡亡 骨骨 骸骸

為為 在在 詩詩 家家

苗苗 喜喜 少少 用用 買買 菜菜 園園 花花 落落 酒酒

風風 香香 入入 畫畫

春のこころとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと

閏三月

今年閏在春三月今年閏在春三月 割見人堂割見人堂

陸陸 一一 月月 花花

歸 豁 欽 鷺 更 遠 面 於 孤 雲
之 海 舟 林 舞 蝶 在 翻 翫 於
一 月 之 屯
花 梅 海 根 無 盡 悔 為 期 入
首 乞 正 約
こくをめぐりしつれろくを
りしれうらりあることやとす

鷺

鷺 既 鳴 忠 臣 竹 且 鷺 未 出

遺 蹟 在 谷

雜 家 碧 樹 鷺 啼 之 雁 第 几

空 峯 亦 有 舞 臺 友 賢 之 瑛 簾

未 盡

咽霧山宮啼尚うら少い暮沙い色ろ

筆し系ん終ん分ん

庭う以て有あ酒け宮うのみ海よ有う水み面ん是し

蛭風む洗あ池い

寫う祥ぐ綉し列り來ん花の下の草の魚の拍つ

留り度う小こ色し

感かん回かい類るい於お相あ取と離り鴻こう去こ為な

一い庭てい喜ぎ轉てん會かい美み字じ音おん於お混こん

龍りゅう吟ぎん魚ぎょ躍えつ々々伴ばん啼てい呼こ

壺か炸さ之の神しん哲てつ収しゆ情じやう縹へい龍りゅう於お

素す拍ぱく周しゅう良りやう々々替か頻ひん動どう願げん間かん

用ようお新しん花か

新踏如人今事宿高条系案办

後属春重

西梅月落屯石中殿燈

残竹裏音

あしたまのきくらげはあはれ
まじりておとこいすまのこ
あそびはるさつうまよりのあはれ
しるしはるさつうまよりのあはれ

あはれはるさつうまよりのあはれ
あはれはるさつうまよりのあはれ
あはれはるさつうまよりのあはれ
あはれはるさつうまよりのあはれ

霞

霞光曙後殿松中草多情

未類似煙

鑽沙草虫三分計疎樹處

終事既解

止

(其)

さゆふもふらけうはるあま
のすまのまふもやうらにた
けらうまふもやうらにた
うらのうらうらにた
あまのうらうらにた
けらうまふもやうらにた

雨

或高花下潜增雲子之悲
時舞鬢間暗動潘郎之思

長樂鐘起花外龍池柳

逢雨中涼

春得自為花父母洗朱亭

辨樂者長

花新五日初陽潤香老酒

時為苦陰

濃香芬郁妓媵之烟凉意
青色易分残香底昔情難

每夕雨中

仙江風生之數書野燈火

暖味揚烟

夫... 矣... 哉... 矣... 哉...

了... ぬ... ぬ... ぬ...

柳

林管何處人筆柱端柳誰

家暖翰卷

漸欲神地濟馬客未多底

得上梅人

至女ぢよめ廟やしろ毛け似に粉こな眼まなこ若わか村むら

柳やなぎ髮かみ玉たま面おもて

珠たまご知しる老おい去く月つき情なさけ少すくなく見み人ひと以もつ年とし

云いひ一ひと句く詩し

大おほ唐たう履つゆ之の梅うめ子こ落おち誰たれ回かへ粉こな

粧まげ通とほ唐たう履つゆ了しまひ之の香かほ味あじ味あじ豈あや豈あや豈あや

紅くわう艸そう

雲うみ錦にしん紅くわう錦にしん投な東あづま日ひ春はる嬌こゝろ美み

惜おぼ嬌こゝろ柳やなぎ風かぜ

愁おも宅たく迎むか晴はる庭にわ月つき暗くら陸りく池いけ迎むか

白しろ水みづ煙えん涼すず

薄うす心こころ月つき波なみ手て枝えだ柱はしら春はる日ひ風かぜ

東 浪 美 歌

あややのいそりかきあはるしを
いそりかきあはるしをいそり
まらねまきとりやうねまきとりの
いりのかきあはるしをいそり
あはるしをいそりかきあはるしを
いそりかきあはるしをいそり

花

花 明 上 苑 行 馳 九 陌

唐 様 門 々 山 斜 月 葦 子 叢

し 海

池 色 溶 々 藍 染 水 花 老 松

こ 火 燐 々

遠 見 人 家 花 使 入 不 漏 貴

賤 占 親 疎

臺日壹風高伍子顆万粒
玉漆枝渡浪表一入
再入
誰福水無心濃飽醉步波
夏色甜浮花不落醒澁
步教動層

飲得水則澆女醉粉
鏡清臺金得之屯心蜀人
澤又与海兼燦
織貞何結唯蓄由裁甘元
根任喜風
花苑如錦裝澹粧張者喜

風未息るを

始識春風様と巧拙識

系残香芳

眼負蜀郡裁残錦年俸茶

城調むむ筆

在中にをくしてさうたなりを
けりのうらむれもあうまう

まやとのちるかんくふくか人
りりまむむれれせよりくるま
みくのやんかかかんか
ていかにけいけいふを

落花

落花不語之新樹海あり

心白入池

朝踏落花相傳出春随死

鳥一時歸

春花面入醉楊

曉鷺群

落花狼藉風狂後啼鳥絕

待雨打時

誰箇風翎噴檻奔下梅枝

神欣階翫

あはれにふらふらとけしむらさき
あはれにふらふらとけしむらさき
あはれにふらふらとけしむらさき
あはれにふらふらとけしむらさき

鄰獨

曉葉尚開紅鄰獨秋房初

結白芙蓉

和梅人秋め来把筆人念家

意巧清卷

おもひいつるとれとれ此のつとつ
いはひいれあきつひきまの

秋冬

點着唯黄天有と秋冬漢

後書ま風

書意省卷相収拾証紙を

又未まひ

いまやとらんうらやとらん
いまやとらんうらやとらん
いまやとらんうらやとらん

藤

梅望意思之月由紫藤花

海客昇天

紫藤花底錦花之繁竹煙

中書寫字拜

夏更衣
たなりのしほふこころはふあらしと
わきてゆんぬ人のさかん
とまこころふらふれまきこにあやかし
わらわらうらうらうたてあふ郎

背破燈残煙着燭用若衣

年隔年香

生衣軟侍家人着宿醜當

招色老耐

首夏
あはれものありありたなりの舞々れを
あはれもあふまらふもあふらふ

瓊頭竹葉經春染階庭蓋
敵入夏開

若生石面怪衣經為布池

心小魚沫

我中ものかきみやらと海を清くん
なつまつりたりとくはうれが

夏秋

風吹枯木晴天雨月照乎

沙夏秋表

風生竹葉定當秋月照松

時春上り

其秋意果黄度後海舟

白月心幼

なつりふと祢ぬよあけぬらひい
ちくけんれとやちのこらり
いさすたうやうつこれ
いさすたうやうつこれ
いさすたうやうつこれ
いさすたうやうつこれ
いさすたうやうつこれ
いさすたうやうつこれ
いさすたうやうつこれ
いさすたうやうつこれ

端午

有時高戸たかたかた急故
是任括約

わらこはくきうよあひかきあやめ
おいとくうやまこらり
まのよまこらりにおひあやめ
うらまこらりあやめ

細涼

青苔地と消殘雨緑樹陰
花を夜涼

露葉清風玉垂花滑月襟着

松うき此いふ井のつとむすいあけ
まつ好ふとくわおひひくつた

晩夏

竹身ちくみ法ほふ合あは偏ひま宜ま夏なつ水みづ檻くわん風かぜ

涼すずし不ず約やく林りん

夏なつつらあきとあまれあつりあ
つとつらあきとあまれあつりあ
秋あききこもさうくあまれあつりあ
冬ふゆつらあきとあまれあつりあ

花檻

廬い橘ちやく子こ位い山さん雨う重じゆう栢はく桐どう系けい

我われ水みづ風かぜ涼すずし

枝えだ紫むらさき重じゆう於お臺たい面めん後ご屯とん葉は葉は葉は

暮くれ翁おきな如ごと風かぜ程ほど

まつあきまらうららあきあけ
ひらけ人ひと心こころ乃のうららあきあけ

連

風荷光架着露珠名茶

花露香

葉居新就南初月花露香

友入苞

煙開翠扇清風响水波紅

衣白落林

春竹枝位色名君漂為景

初色色花

珠何更竟美山如使色香

老度下花

經為題目似力服知汝花

中極香根

ちんちん葉此ありにてさぬ心く
なつたつゆとたまにあさむく

郭公

一聲山鳥啼雲外万點水

黃秋草中

あつたつゆとたまにあさむく
なつたつゆとたまにあさむく

あつたつゆとたまにあさむく
なつたつゆとたまにあさむく

あつたつゆとたまにあさむく
なつたつゆとたまにあさむく

螢

螢火乱飛秋をと履星早

没夜物長

蓋蔭水晴雲知秋楊柳風

高府送林

明く仍在誰遊月克松屋

上皓く不消堂秩書行志

麻頰

山陰春暮款遊沖海賦扁

中似高流

あつたあはるのやのひの
うせりまきぬいなるちりき
はるあともかたぬもれいさつり
もしりあまきるおひのちり

輝

遅く春日玉替暖考温

泉溢燭く考林風山輝鳴

考言樹紅

子牽馬踏雪梅雨六月蜂

聲送麦秋

鳥下綠葉茶花舞蜂鳴黃

葉落秋

今逢黃菊勝故人菊先輝

忠為心也

歲暮歲來德不復年也秋

後子為之

及之のよれこそ秋のなつらふ
うきり世をらん乃とまきあ
あま秋ふよりこもあぬらひす
秋のうらみは

扇

重夏不銷雪終年無風

秋生自裏花月入懷中
不期夜漏初分後唯歎秋
風味如茶

あまの川あそびすきいづれ
いづれのせとたれやうま
あふはにあまれをふ芳しく
うけすしあまをうまれ
あまのふまうすあまのせう
たのむらぬくまあまのうま

秋 五秋

蕭颯涼風白裏蟻誰教討

會一時秋

鷓漸散回秋色少鯉當趨

處晚輝激

あまの川あそびすきいづれ
いづれのせとたれやうま
あふはにあまれをふ芳しく
うけすしあまをうまれ
あまのふまうすあまのせう
たのむらぬくまあまのうま

うらつきーのそくはらちる
あまのつしりささふとふし

早煉

但喜暑随三伏去不知秋

送二毛来

槐花雨润新林地桐葉風

凉欣和天

爽景剩残夜尚重晚凉潜

刈藁先人知

あまのつしりささふとふし

七夕

憶得少年長乞巧竹竿頭

上 配 絶 多

二星遍逢未叙別緒依
之恨不盡將的頻驚涼風
調々聲

露應別渡珠之落雪是殘

粧髻未成

風浪昨來去忽忽處及的

胡淚不禁

衣尖浪處夜濕行燭交

流月空消

詞流激波雖且是心期所

月歎為媒

あふれ月とささやかりふはねも
きこゆつりささやかりふはねも

いもせしひもゆりもまはるに
あふらんはらののりたなきり
しーとにあふもねたたる
わりのしりうすかきり

秋興

林間煖酒燒紅葉石上題

詩拂綠苔

楚思眇茫雲水冷高聲清

晚管經秋

大底四時心熱者就中腸

新是秋天

物色自堪傷客意直將愁

字作秋心

由来感思在秋天多被當

とらやまのふりむす
りのふらあふれ夕か

秋夜

秋夜長くく無睡天不明

秋く残燈少日望新菊く晴

面打し忘る

遅く鐘漏物長秋く星

河合暖と

暮子橋中暮月秋村来只

為一人生

暮子落涼人乞後秋書書

虫月明あ

蓮花湖裏孤舟友松柳言

以万里心

あーいよのやまらりれおの志るるの
まうーとまきまきいさあけはら
むつとまきまきいさあけはら
いさあけはらいさあけはら

月十を月

秦甸之一千餘里凍く氷
鋪漢家之三十六宮澄く

粉飾

織錦樓中已辨相思之字

持衣貼之俄添怨別之拜

三五夜中新月多二百里

外故人心

嵩山表裏子童書洛水

位 五 顆 珠

十二 廻 中 每 勝 於 此 久 矣

好 于 万 里 外 各 年 亦 有 好

く 光

碧 浪 垂 波 之 下 初 秋 風 計

會 似 之 處

自 疑 荷 葉 嫩 霜 早 人 道 道

花 邊 雨 餘

岸 白 遠 迷 松 上 新 濤 轉 可

葉 深 中 魚

瑤 池 便 是 身 常 步 此 夜 清

明 玉 不 如

重宵一滴秋風露玉匣三
更玲瓏畫

楊貴妃歸唐帝思李夫人
去漢皇情

有妙面一...
...
...

月

誰人階外久
...
...

秋多
...
...

畫月以連

不醉
...
...

月正養

採故事於漢武則赤黃採
采人之家身奮高古統又
心黃花助軟祖之術
先三逢步吹其花如曉星
之博河漢十分考蕩其
彩於杖雲也洛川

谷水洗花汲下流而得上
壽者之于館在地和味
食日精而駐年顏者六面

菌菜

引やとのされし経路をた
いかにしりてくちりてくるん

菊

霜遠老驥之分白落菊新
花一寸黃

不是花中偏
不是花中偏

後更甚也

嵐陰欲暮
松栢之悽凋

秋
系子移朝
芝蘭之先敗

鄰縣村園皆
潤屋陶家兒

子不棄也

蘭苑自悲
若作肯檀離不

信有長生

榮蕙苑
嵐推
意凌
蓬萊潤

月照
書中

いさゝこのやまに色をてんばさした
あさひのほしとあやまのこころ
あふらあまにおくやせきつりの
とまはらふあまのこころ

九月書

縦に清幽を固難留南楚
於雲衢維人合盡責而進何
遮爽籟古風境

新目張陸祥あまの秋後

右左無難

文筆素素白約東河海縁

真紅系秋

あまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころ
あまのこころあまのこころ

女郎花

花の色は恋葉侘叫る女郎

園名哉歌肆借老恋恋表

病首似表

をみまへおほる野色よやうりそは

あやめくあさむくあやめくあやめく

とよなへくあやめくあやめくあやめく

萩

暁露庭鳴花は数百般

折一時情

あさみのけりはさう歌よのころをたそ

ふりやわらうれくさけそそふ

ふりやわらうれくさけそそふ

あさむけにさるのふきこもるや

志のゆきうけりてあやめ

松樹子年終是朽槿花一

日自為榮

來而不面難離有拂晨露

去而不返槿離世披春之花

松竹つれぬたもさう志の森あきまの
あきまふふふのあきまのあきまの
あきまのあきまのあきまのあきまの
あきまのあきまのあきまのあきまの

前栽

多負栽花校園儔生時豫

春待閑遊

自古閑森如儔依春樹去

栽秋草下林

け二章二清也

閑思者汝花紅日正是當

衣 續 白 年

びんの まるき こと

曾 此 種 屬 思 元 亮 為 是 花

時 供 在 尊

花とすまふしとてふさくは
いりてあつたふとこたつたふ
まふさりてはくまふとてふさくは
よもいふとあつたふとすまふ

紅葉 付 落 葉

不 信 紅 葉 喜 若 地 又 是 涼

風 驚 面 也

黃 纈 纈 林 是 有 葉 碧 瑠 璃

水 淨 如 風

洞 中 清 淺 瑠 璃 水 在 蘭

珠 錦 瑠 璃 林

外物獨醒 松潤色餘波合
力錦江 拜

あつたのこころもいそいでふたは
しとまのこころもいそいでふたは
むらさきのさくらもいそいでふたは
はるそのさくらもいそいでふたは

落葉

三秋の雪と漏正長之階雨

滴万里の郷園何に落葉

念涼

秋庭不拂 携藤杖 采踏梧

相黄葉行

城柳宮槐 滂搖落 秋悲不

到貴人心

梧桐秋中一雨之灑
鵲鳩宿之教行之紅燄
樵蕨生反杖穿朱實
衣隱逸優遊殿踏首
雜仙
隨風落葉香蒲
灑石飛

く楽

泉奕雅琴

逐夜之夕芙蓉月
每朝拜
少漢林風

あすはけりみらなう
やまのあさうと
秋なるあさうと
みふらんをたう
ゆらりるをよりの

上

鴈 甘 白 石

万里人南去 之春 雁北飞

不知何 紫月 涛与 汝 同 归

尊 陽 江 迤 湖 添 滿 軟 聲 秋

聲 丁 鴈 引 來

四 大 原 山 新 雨 氣 由 之 約

鴈 踏 雪 林

君 弓 難 逐 未 拋 疑 於 上 信

一 月 懸 奔 箭 易 逐 於 成 漢

公 下 流 水 急

鴈 飛 碧 落 書 青 紙 集 聲 霜

林 破 錦 機

碧玉蒙華斜立柱
紙教り書

雲家茫外駕中贈風櫓漾
湘浪と舟

あさりせしつり
ゆり
ゆり

山腰婦為斜奪帶
山面新

虹未展中

けり
けり

虫

切く暗急下響く深草意
杖下思婦心由未幾人耳

素草欽枯虫思昔風枝末

乞多物難

床嬾短脚養都南聖狀之

心驚孔家

山館雨時鳴自暗野亭風

屬織衣寒

暮色忽然遠風可晴聖底吟

幽月余之

とあまをまたたきとけめ今んあまのよと
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
たうまのいけりけりけりけりけりけりけり

廢

蒼苔路滑僧歸寺紅葉輝

乾慮在林

暗造會平身色夜更隨か

草渙風來

りみらとぬとさるのやにすひる
たのこたさきてやあさくもらん
きふのくよとくこれうたう
こ急のうらふやあさけはるる森

落

丁憐九月初三夜落似去

月似弓

露滴葉露寒玉白風衝松

架稚琴清

さ成しものあさくあなれあさく
たよしくもあさくあなれあさく

落

竹露晚籠樹底月顏風暗

送道江春

隆愁夕芳埋人枕行電朝

平らある緞

手くくめれふきさねるあさうま
あかのやまくとららりませ

持衣

二月九月正長靴子样万

替又世心時

小斗斗早衣の持極局南極月

下持寒衣

持處晚愁玉月吟載得秋

うすの寒衣

裁出を道迷去紙幣色熱気

不若腰圍

風塵音死復神卷月方村

忽面恒

年々別思跨村局卷々幽

聲如海鶴

あまうり色うけいけい月きよ
まこと移ぬ人とうきふくあつた

冬物冬

十月江南天幸好可憐冬

象似喜華

四時老落三分城万相踏

陀道才調

床よ春収青竹葉雪中閑

右白綿衣

秋より夏より人あしふるまゝいそぐ
ゆづりゆづりゆづりゆづりゆづりゆづり

冬夜

一盞寒燈雪外夜數五温

耐雪中春

年光自向爐前あはれぬ

送枕と生

あはれひよりのあはれあはれあはれの
あはれあはれあはれあはれあはれあはれの

兼書

寒冢南月澹如鏡夕吹和

霜利似刀

風雲易向人前
前業未成
月餘

溪老座を

ゆくとこれか
けえりくわあこす

爐火

黃醅綠醕
途冬
曉
絳
悵
紅

鶴
迎
衣
用

看
玄
野
馬
聽
甘
苦
的
裏
風

光
波
火
逆

林
火
魚
撲
花
樹
取
對
來
終

日
省
妻
情

作
時
縱
彼
考
在
下
全
日
那

醉
歎
亦
色

ういもんはしつふあはれん
かりうあくまろけりてしん

霜

三秋源書屯初白一本林

君美もあは

萬物秋霜能壞色也時冬

日初凋年

園亭夢琴成添孤婦之礎

上山深感動先侵田皓

倭色

春子秋深聲不發老翁年

晚嶺相尋

聲く己断美身終方物

寄高麗人

君侯瓦濤宮夏文亦老屯

報鶴百拜

長城... 亦老屯

雷

曉入梁王... 亦老屯

和宅度... 梅月... 亦老屯

銀河沙漲... 亦老屯

開一... 亦老屯

雷似... 亦老屯

驚立... 亦老屯

或... 亦老屯

毛心南情行跡於緩原和

く疎

翅似清群栖浦鶴心應系

真持舟人

立於庭上以為鶴生在池

色多不飛

班女墨中秋扇色楚王春

上水堤琴琴

あまのこらちりしとらふまはゆきと
ののやうはありやいぬん
んかきやうのさきまのさきまのさきまの
うきまのさきまのさきまのさきまの
かきまのさきまのさきまのさきまの
いづれをいづれをいづれをいづれを

水 甘き水

水封水面開無浪香花林

預見者花

霜妨鵲喉之香露有花物

疑薄有月

松月此月若あつりささひ

表由

冰消見有多お地香香中

山畫入梅

水消澄主色於霜香中染

王不白牧

初春惟能令使良味逸を

忘失長志

和漢朗詠集卷上 終

あふしつらふ法をうけしるす
あふしつらふ法をうけしるす

上
和漢朗詠集

